

平成31年産

# 大崎麦作情報 第1号

平成30年10月9日発行  
 宮城県大崎農業改良普及センター  
 TEL0229-91-0726 FAX 0229-23-0910  
<http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

時期	10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ		出芽				幼(2 苗期 3 葉期)			
主な作業		播種 土壌 処理 剤 散布					麦踏み (越冬前)		茎葉 処理 剤 散布

栽培ごよみ

～平成31年産麦の安定生産に向けて～

- 生育量を確保する  
→適期播種：10月20日が晩限
- 遅れ穂を少なくする  
→麦踏み（踏圧）：年内1回，越冬後1～2回を目安
- 収量，外観品質等の改善  
→追肥：幼穂形成期，減数分裂期，穂揃期（小麦のみ）

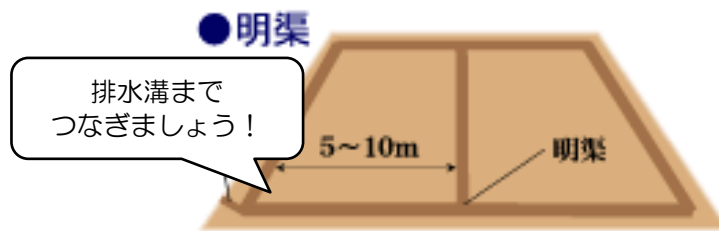
# 1 ほ場準備

## (1) 排水対策 ～明きょ、暗きょを施工しましょう～

麦は湿害に弱いです。明きょと暗きょを適切に施工して排水対策を行きましょう。

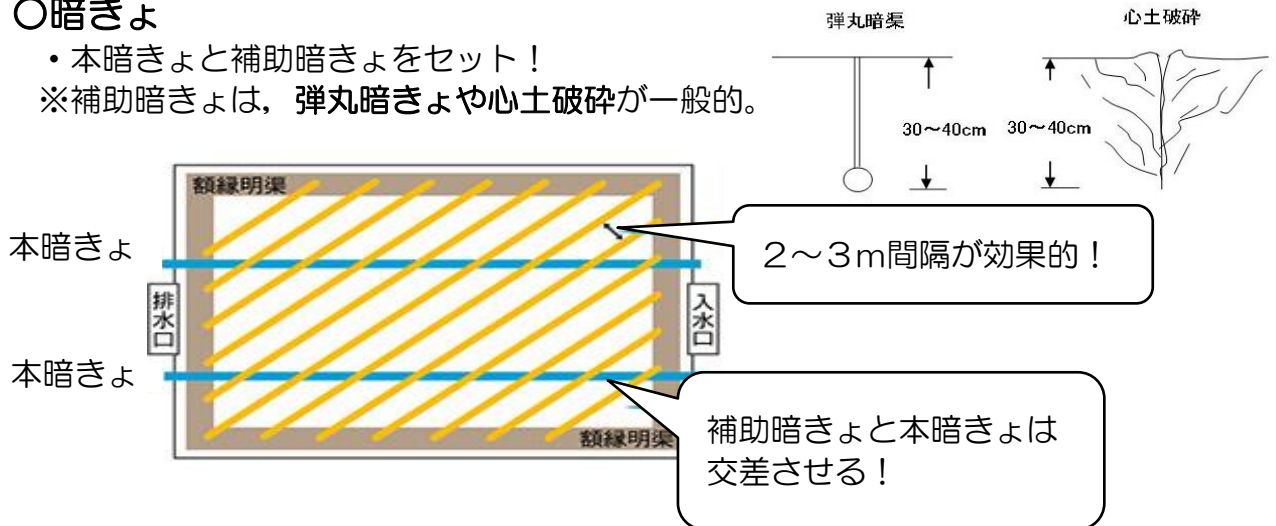
### ○明きょ

- ・額縁に沿って深さ30～50cm程度の溝を設けましょう。
- ・明きょと排水溝は必ず連結させましょう。
- ・排水不良のほ場は、ほ場内にも5～10mの間隔に1本の割合で明きょを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。



### ○暗きょ

- ・本暗きょと補助暗きょをセット!
- ※補助暗きょは、弾丸暗きょや心土破碎が一般的。



## (2) 土づくり

### ○酸度矯正

- 麦は微酸性～中性の土壌酸度を好みます。
- 定期的に土壌診断を受け、土壌酸度を調整しましょう。
- 目安：大麦…pH6.1～7.0, 小麦…pH5.6～6.5
- ※転換畑の土壌酸度は通常 pH5.0～6.0

### ○地力増進

- 堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。
- 有機物は土壌の物理性改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果が有ります。

## (3) 基肥 ～標準施肥量/10a～

窒素 8～10kg, リン酸 8～10kg, 加里 10kg

※稲わらをすき込んだほ場は、窒素を1～2割増で施用してください。

## 2 播種

### (1) 適期播種 ～適期播種で生育量を確保しましょう～

播種晩限…10月20日（北部平坦地域）

播種が遅れるとさまざまな弊害があります。

適期播種を行い，越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

#### 播種遅れによる弊害

出芽遅れによる初期生育量の不足，根張りの不良，茎数不足，出穂のバラつき，未熟粒の発生等が挙げられます。

その結果，収量と品質の低下に繋がります。

### (2) 播種量・播種方法 ～適切な播種を心がけましょう～

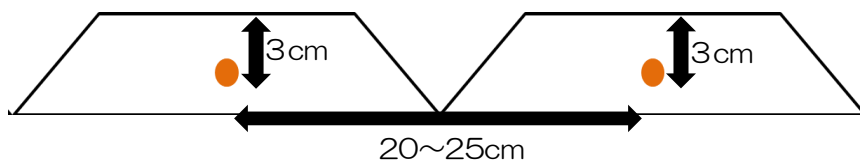
○播種量：8～10kg/10a（ドリル播き）

播種時期が10月20日を過ぎる場合は，やや多めに播種しましょう。

○播種方法（ドリル播き）

条間は20～25cm，播種深度は3cmが目安。

播種作業にあたっては，砕土を入念に行い，覆土不良や浅播きにならないよう注意ください。



播種の様子（ドリル播き）

## 3 雑草防除

土壤養分や光合成の競合により，収量と品質に影響します。

○播種時…必ず土壤処理剤を散布しましょう。

○越冬後（残草が見られる場合）…選択性茎葉処理剤を散布しましょう。

○適期播種により，生育量を確保することで，麦で地表面を被覆し，雑草を抑制しましょう。

主要雑草



スズメノテッポウ



ネズミムギ  
（イタリアンライグラス）

## 4 麦踏み（踏圧）

耐寒性，耐旱性強化などのために麦踏みを行いましょう。

○作業時期：越冬前の12月上～中旬

※2回目以降は3月上・中旬（生育が再開する再生期以降）に行いましょう。

○生育状況：離乳期（3～4葉期）～茎立ち前（主稈長2cm，幼穂長2mm程度）

### 主な効果 ～メリットがたくさん！！～

○麦への効果

耐寒性，耐旱性の強化，徒長や茎の早立ちの防止，分げつの増加，  
分げつ相互の生育調整，穂揃いの均一化，深根化，稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱，旱害による被害の軽減，強風による土移動の軽減と防止。

ただし，遅まきの場合，麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。  
また，過湿ほ場の場合，耕土を固結させて根の発育を阻害する恐れがあります。  
いずれも逆効果なので，麦の生育状況とほ場の状態にご注意してください。

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月15日～11月30日）◆◆◆◆◆

農作業中の事故は農業機械によるものが多く，また，機械の転倒や転落が大きな要因となっています。あぜ越えや路肩を走行する際は油断せずに，後方確認を行い足元にも注意しましょう。

重点推進テーマ 「まずはワンチェック，ワンアクションで農作業安全」